



国旗の青は青空を、黄色は小麦畑の色を表しています

Добрий день!(ドブリ・デーニ : ウクライナ語で「こんにちは」の意味です)

皆さんこんにちは！ウクライナでは日々寒さが厳しくなり、空はどんよりと曇る日が多くなってきました。ですが、今年は例年に比べて暖冬のように、現地の友人によりますと、12月に入っても雪のない日は珍しいとのことでした。(実際に、これまでのところ、雪は舞う程度にしか降っていません。) さて、2 通目となりました今回のお便りでは、ウクライナの HIV 状況についてお伝えしたいと思います。

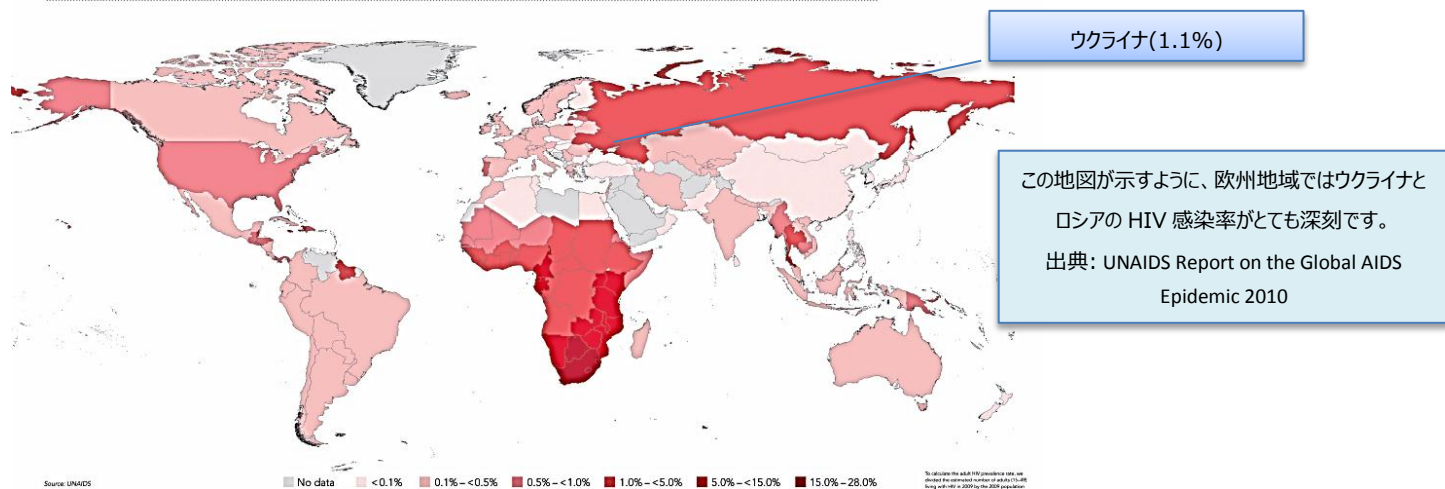
1.ウクライナの HIV 状況

ウクライナの HIV 状況についてお知らせする前に、日本の皆さんは、日本の HIV 感染率がどのくらいであるかご存知ですか？日本は 0.1%未満となっていますが、世界全体の成人 HIV 感染率(推定)は 0.8%、そしてウクライナは 1.1%となっています。これは、人数にして 350,000 人(全年齢)、ヨーロッパ地域においても、ロシア(1.0%)と並んで最も高い数値となっており、ウクライナにおけるリプロダクティブヘルス分野の課題の中でも、エイズ対策は優先度の高いものになっています。

かつては、ウクライナの HIV 感染の主要な要因は注射器による薬物使用でしたが、現在は、性的接触による感染が増加してきています。その背後には、貧困や雇用問題、アルコール中毒などがあると考えられています。HIV に対する正しい知識を持っている若者が少ない(男女共に半数以下)こともあるため、現在 UNFPA では、若者を対象にしたエイズ対策プロジェクトを行っています。

2010: A global view of HIV infection

33.3 million people [31.4–35.3 million] living with HIV, 2009



2.リプロダクティブヘルス分野の課題

HIV/エイズ問題はウクライナにおけるリプロダクティブヘルス問題の中でも深刻な課題の一つですが、性感染症や家族計画、安全な妊娠や出産など、リプロダクティブヘルス分野における課題は HIV/エイズだけではありません。ですので、エイズ対策だけに特化するのではなく、“リプロダクティブ・ヘルス”という全体の概念を、今後更に広めていき、望まない妊娠、妊娠と出産を原因とする死亡や障害、HIV を含む性感染症、ジェンダーに基づく差別など、様々な要因に対する包括的な対策が求められています。

その中でも、特に若者は、必要な情報を得られなかったり、必要なケアを受けることをためらったりすることがあるため、結果としてウクライナ全体の保健状態を悪化させているという現状があります。そのため、上述したように、今後は若者に対する包括的な教育が、この国における重要な要素となってくると考えられます。

3.若者たちの意識

既に紹介しましたように、HIV/AIDS に対する正しい知識を持っている若者は多くはなく、また、不安定な雇用情勢や、地方での娯楽が少ないため、アルコールやドラッグに走ってしまうこともあるといいます。ですが、そのような中でも、正しい知識や行動を仲間に伝え、広めるという活動「ピア・エデュケーション」を行っている団体があります。

先日、私はこの 6 月に設立されたばかりという、若者のためのピア・エデュケーションを行う NGO 団体のミーティングに参加させていただきました。メンバーは、その多くが現在ピア・エデュケーターとして活躍している若者たちで、キエフだけでなく、ウクライナの様々な地域から集まっていました。彼らは、以前 UNDP が行ったプロジェクトのもとでピア・エデュケーターとなるトレーニングを受け、プロジェクトが終わった後も、独自にピア・エデュケーション活動をしているとのことでした。そして、全国にいるピア・エデュケーターたちと共に何かをしたいとの思いから、この団体の設立に至ったそうです。中でも、この団体の設立のために中心になったメンバーの皆さんはとても意欲的で、深い問題意識を持っており、彼らの話を聞いていると、プロジェクトが一過性のもので終わらずに、このように現地の人々に受け入れられ、今もこうして行動を続けていることに、とても心が動かされました。

4.近況報告：70 億人の世界イベント

去る 2011 年 10 月 31 日は、世界人口が 70 億人に達するという、記念すべきイベントがありました。UNFPA ウクライナでも、70 億人の世界イベントの一環としてビデオコンテストが行われ、「世界人口白書 2011」の記者発表と共に、ビデオコンテスト上位入賞者の授賞式が行われました。



世界人口白書 2011 の発表



70 億人の世界 ビデオコンテスト
入賞者の皆さん

入賞者はお若い方が多く、より多くの若い人たちが、こうしたイベントに興味を持ち、参加してくれることはとても喜ばしいことだと感じました。日本でも、70 億人のアクションキャンペーンが展開されておりますが、この世界を構成する一人ひとりが、この世界のことを考え、行動にうつすことが、よりよい世界を作っていくのだと思います。

一人ひとりの力は小さいかもしれませんが、それを合わせれば、きっと大きな力になるはずです。私も、70 億人のうちの一人として、この世界のことを考え、行動していきたいと思います。

それでは、また次回のお便りをお楽しみに。

2011 年 12 月

市野紗登美

United Nations Population Fund (UNFPA) Ukraine

Specialist on Local Development and Reproductive Health